

来年度を見通しながら

今年度で、本校は、コミュニティ・スクールとして2年目となり、学校運営協議会での学校運営についての協議や地域学校協働活動の状況や実態を通して、様々に取組を進めてきています。2学期においては、そろそろ来年度を見通し、学校体制や教育活動の計画等の見直しや改善に向けて検討をしていく時期を迎えているところです。

学校経営方針や教育課程という学校の根幹を支える内容については、この2学期の間に形作られていくのが多いところです。学校間で違いはありますが、早いところでは、夏休み中に基本的構想を考えられている学校もありますし、本校の場合も1学期末から夏季休業の間に前期の学校評価を行い、現段階での改善点や方向性を確認して、できるところから実施したり、2学期の後半にある後期の学校評価で、来年度に向けた内容の最終確認を行ったりしていきます。

【来年度の体制をイメージ化する】

校長の私としては、年度当初から、来年度の教職員の体制や陣容を考えながら、学校体制の大枠を考え始めるようにしています。教職員には異動があり、本校に在籍3年目から6年目までの間で、それぞれの教員が自身のライフステージやキャリアを考えながら、異動等を見定めていきます。在校6年目となると異動が必須となっているのが、今の決まりです。これからの本校の教育活動に必要な新たな教職員の人材が異動してくることをイメージするとともに、本校を巣立ってゆく教職員の未来も考えていく時期となります。



やはり、学校は、教職員が元気であり、安定して職務や仕事に精を出せることが、とても大切な部分です。教職員の働き方改革においてもモチベーションが高まる学校運営や学校風土を創っていくことが求められています。

【教職員の適材適所の配置を考える】

また更に、学校では、それぞれの先生たちが担う職務があり、仕事があります。職務としては、教務主任や生活指導主任、研究主任、特別活動主任、その他の様々な委員会の委員長等のように、その部門の中心者となって、任された自分の職務を全うしていきます。

また、教諭、主任教諭、主幹教諭、指導教諭、副校長、校長の職種に寄っての職務もあり、先生方それぞれの専門性や力を見定めながら、学年担任や適材適所の校務分掌（仕事の役割）の配置を考えていきます。

以上のような様々な内容を基に、校長が学校経営方針という案にして、学校運営協議会の皆様と協議して来年度を決定していくことが、コミュニティ・スクールであり、六小が地域の学校として発展し、引き続き大切にされる学校になっていくことに繋がっていきます。

また、六小が子供たちにとって安全な学校であり、安心に思える仲間がいて、安心できる環境がある学校となるよう、これからも精進して、学校経営と運営に邁進いたします。

仮称【六サポ本部】＝ 地域学校協働本部の名称について

地域学校協働活動推進員の小野さんを中心に、今年度も六小サポーターの皆様や保護者の皆様に教育活動を支えていただいております。

心から御礼を申し上げるとともに、感謝の思いでいっぱいです。大変にありがとうございます。

この地域学校協働活動や地域学校協働本部、地域学校協働推進員などの名称について、学校運営協議会の折に、もっと呼びやすい名称にするのはどうかとの提案をいただきました。

そこで、仮称ではありますが、これから校長室便り等でお知らせするときには以下のように記載するようにしたいと思いますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

地域学校協働本部	＝ 「六サポ本部」
地域学校協働活動	＝ 「六サポ活動」
地域学校協働推進員	＝ 「六サポコーディネーター」



更によりネーミングがありましたら、お声をあげてください。

また、以前からお知らせをしておりますが、来年度より、保護者の皆様には、**全ての保護者の方が六小サポーターであると認識**いただき、すぐる等でのお手伝いや支援等の依頼にお答えいただけるようにしてまいります。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

保護者以外の地域の方には、引き続き登録制の六小サポーターになっていただき、学校と地域が協働する教育活動を目指したいと思います。

来年度は、「六サポ本部」を設置していきますので、ご賛同の程、よろしくお願いいたします。

お詫びと訂正のお知らせ

この校長室便りの上記の大きな見出し「六小・富士便り」のところの開校の年数が年度当初より間違っておりました。謹んで訂正いたします。開校56年目が正しいものです。これまでの校長室便りのものは、「57」を全て「56」と読み替えていただきますようお願いいたします。

これまでの経験上、周年を迎えた学校では、10周年だと11年目に実施されるような形式で周年行事をしてきたこともあり、昨年度の55周年を、私の中で56年目に行っているように捉え、今年度を57年目と表記してしまいました。また、ホームページに掲載してあります今年度の校長室便りは開校56年目と全て改めましたので、ご承知おきください。

ここで、改めまして、お詫び申し上げます。大変に失礼をいたしました。

これからも六小の教育活動や様々な取組にご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

【校長のつぶやき】 建物の中で、よく声が響くところがあると、ちょっと声を出したくなります。特に合唱やボーカルグループの経験者の方には、分かってもらえるかなと思いますが、体育館やコンクリート建ての廊下、階段の踊り場等、音が反響する場所に来ると、ついつい響かせたくなります。そういう場所を大学当時の仲間の間では、「傲慢ホール」と読んでいました。上手く歌えていなくても、上手に聞こえるという意味でのネーミングです。代々の先輩から後輩へ受け継がれた面白い伝統の1つです。

最近、改めて声を意識していることもあり、先日の全校朝会では、私の声が体育館によく響きました。皆さんも、どれだけ声が響くか、一度意識して、響くところで声を出してみませんか。